

生活支援技術論

《担当者名》加藤 聖子（非）

【概要】

学生が持っている生活観は、各々の生活背景や生活史によってさまざまであり、障がいのある人や高齢者の生活を理解するのが難しいと考えられる。

なじみのある居住環境のもとで家事という私たちすべての日常生活の中に存在する具体的な生活支援の過程で、どのようにニーズを発見していくか、それをどのように具現化し、他職種と連携・協働していくかなどを学習する。介助を必要とする人の生活を重視し、個別性を尊重し、幅広い生活上の援助を行うための基礎となる技術を習得していく。

【学修目標】

介護を要する人たちが尊厳をもってその人らしく暮らせるよう、現在の状態を把握し、潜在能力を引き出し、自立を目指してできる可能性を伸ばし、個性を重視した介護の展開ができるよう、安全に生活援助できる技術や知識を習得することを目標とする。

本講義では生活支援における居住環境整備や家庭生活にかかわる基本知識を学ぶことに重点を置き、さらに家事支援の意義と目的を理解し、さまざまな場面に応用できる技能の習得を目指す。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	生活支援の理解	家族の概念・構造や形態について概説できる	加藤
2	生活支援の理解	ライフサイクルと生活の豊かさについて概説できる	加藤
3	生活支援の理解	生活支援のポイントについて概説できる	加藤
4	居住環境の整備	住まいの役割と機能について概説できる	加藤
5	居住環境の整備	生活空間 人と空間について概説できる	加藤
6	居住環境の整備	生活空間 加齢と生活空間について概説できる	加藤
7	居住環境の整備	快適な室内環境 生活環境と室内環境について概説できる	加藤
8	居住環境の整備	快適な室内環境 明るさ、音環境の調整について概説できる	加藤
9	居住環境の整備	快適な室内環境 住まいの維持管理について概説できる	加藤
10	居住環境の整備	安全に暮らすための生活環境 住宅内事故の現状について概説できる	加藤
11	居住環境の整備	安全に暮らすための生活環境 日常安全のための対応策について概説できる	加藤
12	居住環境の整備	高齢者・障害者の住まい 高齢者の住まいについて概説できる	加藤
13	居住環境の整備	高齢者・障害者の住まい 障害者の住まい、住まいと地域について概説できる	加藤
14	居住環境の整備	居住環境の整備における多職種との連携について概説できる	加藤
15	自立に向けた家事の介護	自立した家事とは、調理の介護について概説できる	加藤
16	自立に向けた家事の介護	食生活の基本知識 栄養の理解 炭水化物・脂質について概説できる	加藤
17	自立に向けた家事の介護	被食生活の基本知識 栄養の理解 たんぱく質・無機質・ビタミンについて概説できる	加藤
18	自立に向けた家事の介護	食生活の基本知識 食品の購入と選択、食品の安全性、食中毒について概説できる	加藤
19	自立に向けた家事の介護	第1回調理実習	加藤

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		献立に基づく栄養価計算、食品の調理性、技法について概説できる。実習・反省を行う(グループワーク)。	
20	自立に向けた家事の介護	第1回調理実習 献立に基づく栄養価計算、食品の調理性、技法について概説できる。実習・反省を行う(グループワーク)。	加藤
21	自立に向けた家事の介護	第2回調理実習 高齢者・障害者向けの食品の調理性、技法について概説できる。実習・反省を行う(グループワーク)。	加藤
22	自立に向けた家事の介護	第2回調理実習 高齢者・障害者向けの食品の調理性、技法について概説できる。実習・反省を行う(グループワーク)。	加藤
23	自立に向けた家事の介護	第3回調理実習 高齢者・障がい者向けの食事(介護食)食品の調理性、技法について概説できる。実習・反省を行う(グループワーク)。	加藤
24	自立に向けた家事の介護	第3回調理実習 高齢者・障がい者向けの食事(介護食)食品の調理性、技法について概説できる。実習・反省を行う(グループワーク)。	加藤
25	自立に向けた家事の介護	第4回調理実習 生活習慣病対策の食事 食品の調理性、技法について概説できる。実習・反省を行う(グループワーク)。	加藤
26	自立に向けた家事の介護	第4回調理実習 生活習慣病対策の食事 食品の調理性、技法について概説できる。実習・反省を行う(グループワーク)。	加藤
27	自立に向けた家事の介護	被服生活の基本知識 洗濯について概説できる	加藤
28	自立に向けた家事の介護	被服生活の基本知識 衣類の管理について概説できる	加藤
29	自立に向けた家事の介護	被服生活の基本 裁縫について概説できる	加藤
30	自立に向けた家事の介護	買い物・家庭経営、家計の管理について概説できる	加藤

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験(70%) 講義中のミニテスト、レポート、実習への参加意欲(30%)から総合的に評価する。

【教科書】

『新・介護福祉士養成講座 生活支援技術』中央法規

【備考】

この科目は、介護福祉士国家試験受験資格取得のための「生活支援技術」に該当する。

【学修の準備】

ミニテストを実施するので、毎回の講義の予習・復習をしっかりとしておくこと。(予習復習4時間)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2: 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1: 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3: 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

(2026年度・看護福祉学部)

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実務経験】

高等学校教諭（家庭科）

【実務経験を活かした教育内容】

高等学校教諭（家庭科）としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。